（様式⑦-1　小学校・中学校）

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ　学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立　南八下小　学校
校長　木嶋　美雪

中学校区におけるめざす子ども像
豊かな心をもち、自分の良さを知り、人とつながり共同する子

令和6年度　重点目標
楽学の実現：社会の一員として「今の自分にできること」を考えながら探究できる
①楽学Spirits　-　学び続ける・共に学ぶ・学びを楽しむ　　②学びの3つの柱　-　チャレンジする楽しさ（個別最適な学び）・夢中になる楽しさ（探究活動）・他者と協働する楽しさ（協働的な学習）

確かな学びの現状
GIGAスクール構想が施行されて3年が経過し、学校でのタブレットの活用はかなり日常化してきた。授業改善が加速すると同時に、深い学びを実現するための探究的な活動の土台となる基礎学力の定着の課題が見えてきた。また、タブレットの持ち帰りについても学校として実施できていない状況。本年度も、授業改善を学校生活の軸として行くが、特に6年間の学びを系統的に研究し定着をして行くことと、持ち帰りの実施に重点を置いて実施したい。

豊かな心・健やかな体の現状
楽学の一番の目標である、学校を楽しい場所にするために、日頃から相手意識を持ち、思いやりのある行動を意識した教育活動を推進したい。児童の中で浸透してきたデジタルシティズンシップの考え方をもとに、自分事として人権意識を持てるようになることを目指す。保健室の利用者数・利用回数の増加が課題。何かがあるととりあえず保健室へ行く、と言う習慣もあるが、ケガの未然防止や体調管理などの予防対策にも取り組みたい。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組（●重点とする取組　★中学校区での取組）	判断基準（評価のものさし）	評価方法	評価時期		進捗確認（～12月）	達成状況（年度末）自己評価		学校関係者評価	
確かな学び	基礎学力	計算力・語彙力・情報活用能力を向上させる	ドリルパークなどデジタルドリルの全校実施	ドリルパーク実績データ	データ分析	学期末	12月	情報活用能力の向上に関して、生活のあらゆる場面でICTが浸透している。堺市児童生徒生活状況調査において「授業でパソコンやタブレットなどを使って、次のようなことにどれくらい取り組んでいますか。（ペアやグループで、調べた内容や作成した資料をもとに話し合いをすること）」の項目において88%の児童が肯定的回答。一方で全国学テ・すくすくウォッチの結果より算数に課題があると分析し、職員で改善に向けて取組をすすめる。	△	昨年より計算力や語彙力の育成を意識したが、児童が取得し、活用できるようになるまでには時間も必要。今後もデータを活用し、弱みや強みを把握しながら取り組みを継続していく。情報活用能力はかなり向上。児童会、自主学習など授業以外の活動時でも顕著。	◎	算数における課題に対してはICT等を活用して児童の基礎学力の定着に取り組んでほしい。学級文庫の充実に関しては地域としても協力するので子ども達の読書量を増やしていけるよう要望する。今後、教科書のデジタルが進んでいくと思うが、紙との併用しながら効果的な活用に取り組んでほしい。
			発表や発信など表現活動の充実	授業内外での活動	授業観察 実践報告	学期末	12月		○		◎	
	探究活動	探究的な学びを通して	自己調整しながら課題を解決し、自ら学びをデザインし深めていく授業の実現	個々の授業の振り返りによる成果の確認	振り返り等	単元の終わり	12月	堺市児童生徒生活状況調査において「あなたは、学んだ内容について振り返り、「何ができるようになったか（自分の成長）」を実感していますか。」において75%が肯定的回答。各学年が年間1回時公開研究授業を実施。回を重ねるたびに児童がより主体的・対話的な学びへと向かう様子も見られる。また、高学年については家庭学習においても、自ら計画して進める取り組みを始めており、自己調整しながら自らの学びをデザインできる機会も増えてきている。1月には児童の要望から「学びを楽しむ日」として楽学フェスを開催。2月末には教育関係者向けの公開研究発表を予定。そのために、全ての学年が指導主事と授業研究を進める機会が増え、授業と指導の質の向上につなげる。	○	探究的な学びを通して、児童の主体的な学びが促進した。総合学習では、教科横断的な場面も増えてきた。行事については、児童が積極的に関わる場面も増えた。校内研修を通して研究テーマに沿った改善が進み、より探究的で深い学びが実現しつつある。児童のニーズに答えるための職員体制の体力と柔軟性に課題。より深い学びを目指し、教員の教材研究と指導力向上のための時間確保も検討は必要。	◎	本校の研究発表会に250名もの参加者がいたことから本校の研究内容に関する関心の高さが伺える。教員が高い意欲をもって授業改善を試みていることに対して評価できる。企業と学校と連携して学習を進めている場面もある。社会とのつながりを実際に子ども体感しながら学習できるような取り組みなので、今後も一層推進してほしい。
			学級や学年での総合学習を軸とした探究的な学びの実施	途中経過の共有と日々の実践	授業観察 実践報告	学年末	12月		◎		◎	
			校内研修や公開授業に向けて探究グループによる授業研究の推進	校内研修の実施と振り返り	公開授業 振り返り	年度末	12月		◎		◎	
豊かな心・健やかな体	道徳感の育成	デジタルシティズンシップの考え方を土台とした人権教育と道徳教育の推進	学校生活の中で自分事として考える	児童会による啓発活動の実施	実施回数	年度末	12月	堺市児童生徒生活状況調査において「自分にはよいところがあると思いますか」という質問が全体で80%以上が肯定的回答。年間を通して校内人権研修を位置づけ実施している。特にLGBTQに関して理解を深めており、日常の会話の中でも、児童の性別に対する捉え方に変化を感じる。併せて、通学時用の帽子の選択や、PTA役員の選出においてもジェンダーレスに変更。保護者も含め、意識改革が進んでいると実感。 生徒指導対応については、夏休みに職員研修を実施。毎月の職員会時に、各学年より情報共有の時間を設けるなど、案件に該当する学級職員だけではなく組織として対応できるような仕組みを整えている。	◎	情報活用能力の向上とともに、デジタルシティズンシップの考え方も児童の中に浸透し、特に個人情報の利用については意識が高い。課題に対して、行動を改善することで解決するようになってきた。生徒指導の面で大きなトラブルはないが、言葉使いの課題が目立つ。また、一時的に行き渋りになる児童が中学年で多くなる傾向もあった。引き続き個別の児童や保護者に寄り添う体制を続ける。	◎	道徳教育の推進にむけてさらに力を入れてほしい。特にあいさつに関しては子どもたちが元気よくあいさつしてくれると気持ちが良くすがすがしい。そんな子どもたちを育て互いにあいさつを交わしていくことで心豊かになっていける。地域としても見守りやあいさつ運動に協力していく。不登校の問題に関しては学校だけでなく様々な諸機関との連携が必要。孤立していかないよう連携をとっていく必要がある。
			研修による職員の人権意識向上	研修回数と振り返り	研修実施報告	年度末	12月		◎		◎	
			生徒指導対応の向上と未然防止対策	ケースの記録と分析	データ分析	年度末	12月		◎		◎	
	体力向上	体力向上 健康推進	体育の授業や関連行事において自己の目標の達成を目指す	授業の振り返りによるデータ分析等	全国体力・運動能力調査等	年度末	12月	堺市児童生徒生活状況調査において「体育が好き」に肯定的回答が85%以上。体力テストにおいては女子の体力が高い傾向であり、特に立ち幅跳びにおいては全学年で堺市平均を上回っている。保健室の訪問記録に関しては低学年の来室が多かった。不注意やルールを守っておらずけがにつながっているケースも多く、遊び方のルールの徹底が必要と考える。昨年度よりけがの件数は減っている。	○	長引く猛暑や冬の寒さにも関わらず、体育の授業や休み時間に体を動かすことで体力を維持してきたが、大幅な向上は困難。保健室の記録より、小さいけがのようで結果大きなものだったことが多かった。けがの未然防止については保護者との連携も不可欠。	◎	熱中症対策は引き続き進めていかないといけない。WBGT指数をもとに児童を見守っていく必要がある。プール学習については要改善。和泉市のように民間と連携することで、指導の質の改善だけでなく、安全も確保でき教員の負担も減。また、設備の維持費などの大幅削減も実現できる。
			ケガなど未然防止や、体調管理を推進	保健室の訪問記録と内容の分析	訪問記録数	年度末	12月		◎		◎	
地域との連携		中学校区の連携 地域との関りを深める	小中合同授業研究の実施	研修の実施に関わる連携等	合同研修の実施と振り返り	研修終了時	12月	各校で持ち回りで小中合同公開授業研究を実施。1学期に南八下小・南八下中、2学期に八下西小で実施。3学期からは次年度に向けて食育の時間を3校合同でできるよう準備を進めている。 創立記念日、昔遊び、もちつきなどでは自治会や地域人材に実際に来ていただきご指導いただいた。またオンラインや多くの出前授業として、専門家に指導していただく機会も増え、学校の外の社会に対する児童の興味関心が高くなった。	◎	3校合同研修により、各学校の取り組みを共有する機会が持てた。また管理職だけではなく、教務、事務職員、同学年同士で連携する場面も増えてきた。地域だけではなく、出前授業で多くの専門家にも関わって頂き、子どもたちの興味関心が深まるきっかけとなった。	◎	自治会や地域の方の訪問してくれることが多く、地域やPTAと協力しながら学校教育を進めていくことができた。校報を地域で共有することで学校の考えも理解でき協力体制を整えることができるので今後も是非続けてほしい。
			校区を超え区や市にも関わる地域活動の実施	地域人材活用と関わる活動の推進	実践報告と発信	年度末	12月		◎		◎	

校長より（年度末）
学校目標の「楽学」の実現に向け、職員だけではなく児童たちも積極的に行動する姿が目立つようになってきた。授業の中でも、学校の外の人たちや企業との関わりを通して、社会の一員としてできることを意識し、今までより広い視野を持って「何のために学ぶか？」を考えながら取り組む児童が増えてきた様子。また学校群を意識した取り組みが、管理職の間だけでなく学年間にも浸透し始めてきた。しかしながら、職員の人材不足、緊急時の対応など、職員の業務として授業研究に重点を置くことのできる体制が整わない現状もある。次年度に向けて、引き続きデータ活用による改善の継続と、学校がより一層「学びの場所」として機能できるよう関係者との連携を強化する。

学校関係者評価者から（年度末）
全項目に置いて肯定的に評価をすることができる。特に確かな学びの項目についてはICT活用を基盤とし、児童が問いを持ちながら探究的に学びを進めていけるような取り組みを推進してほしい。人権の取組においても時代に合わせた取組をすることで児童の人権意識の高まっていくことを期待している。あいさつに関しては地域のつながりを深めていくことの最も大切な要素なので大切にして児童の道徳心を育んでほしい。そのために地域は協力するという言葉を頂いた。PTA組織の改編についても評価頂き、持続可能な範囲でPTA活動を進めていけるように進めてほしい。